

大学と地域がともに高め合う

金沢大学の社会貢献

学びの場づくりで地域を活性化 研究成果を毎日の暮らしに還元
最先端の医療をより多くの人へ 金沢大学の地域セミナー&サービス【ガイド】



お気軽にご参加ください

EVENT CALENDER イベントカレンダー

★サークルのイベント

金沢MOT塾

4/12より毎週木曜日開講「技術マネジメント基礎論」

4/13より毎週金曜日開講「環境マネジメント論」

4/17より毎週火曜日開講「技術経営論入門」

【詳細情報】<http://www.t.kanazawa-u.ac.jp/mot/>

公開講座

5/7~9/1
「情報通信・危機管理連続講演2007」

5/12,5/19
「コードネームを使った簡単なピアノ伴奏講座
初級コース」

5/12~2008.2/16「太鼓学入門」

6/16
「美術へのいざない(XV) 大人の造形遊び
ーソーマ・キューブ(立体パズル)ー」

6/16~7/14
「幼児教育の現場から考える現代の子育て学(4)」

6/16~7/14
「導入までわずかー裁判員制度について学ぶ」

6/20~7/18「海外ニュースにみる“お国事情”」

7/14,7/21
「音楽の楽しみ方いろいろ(VII)
ー簡単な材料でできる手作り楽器教室(III)」

8/1,8/2「高校生のための医学・発生物学への招待」

8/27,8/28「教員のための手話講座 中級」

8/27~8/31「心と体の健康」

【詳細情報】http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/kaiho_c/kouza.htm

4月 April

4~ → 学生定期健康診断
(5/24まで各キャンパスの会場で行われます)

7 → 入学宣誓式
(学部:金沢市観光会館 大学院:医学部十全講堂)

9 → 附属学校入学・入園式
(幼稚園・小学校・中学校・高校・養護学校)

9~13 → 書道部新歓書道展(大会館)★

9~7/20 → 新入生展「金沢大学資料館へようこそ！」(資料館)

10 → 学部オリエンテーション

14 → 市民大学院開講式

19 → 第58回金沢大学晩鳥記念式・記念講演(附属図書館)

5月 May

7 → 金沢大学21世紀COEプログラム革新脳科学・
倫理指針研究会主催 公開講演会
「祝福としての死」(医学部保健学科)

8 → ふれあいコンサート(医学部附属病院)

8 → ふれあい看護体験(医学部附属病院 対象:高校生以上)

12 → ふれあい看護体験(医学部附属病院 対象:小中学生の親子)

12 → 健寿会定期総会(エクセルホテル東急)

17 → MEX金沢2007(石川県産業展示館)

26 → モダン・ジャズ・ソサエティ“JA-M-P2!!”
(金沢市民芸術村)★

31 → 名誉教授称号記授与式(ホテル日航金沢)

6月 June

2 → マンドリンクラブ演奏会(石川厚生年金会館)★

6 → 第53回研究発表会と保育公開(教育学部附属幼稚園)

9 → フィルハーモニー管弦楽団サマーコンサート
(金沢市文化ホール)★

16 → 平成19年度御遺骨返還式・合同慰霊祭(医学部十全講堂)

25~29 → 書道部小作品展(大会館)★

30 → モダン・ジャズ・ソサエティ“立命館大学との
ジョイントライブ(仮題)”
(金沢市民芸術村)★

7月 July

14 → 薬学への招待 1日体験入学(対象:中高生)

14~15 → らくだの会[演劇部]公演(金沢市民芸術村)★

27~28 → 金澤タぐれ祭り2007(広坂緑地など)

30~9/28 → 企画展「絵葉書に見る関東大震災」(資料館)

8月 August

8~9 → オープンキャンパス

9~10 → (予定)金沢大学理学の広場
ー夏休み 高校生のための理学体験セミナーー

13~15 → 夏季一斉休業

8/8~9 開催決定!
オープンキャンパス

>>> <http://www.kanazawa-u.ac.jp/enter/event/open19sc.html>

金沢大学は2008年4月、これまでの学部・学科から「3学域16学類」に生まれ変わります。新生・金沢大学の魅力にあふれるオープンキャンパスに、ぜひお越しください。



〔表紙写真〕
古代ギリシア・ローマに由来する植物で、和名を葉刺(ハアザミ)という。金沢大学校章のモチーフになっていることから、キャンパス内施設に名称が用いられるなど、長年にわたり学生や教職員に親しまれている。

〔表紙写真〕
宝町・鶴間キャンパス
保健学科5号館
光の差し込む5号館の玄関は、園芸療法でパワーを発揮する植物たちでいっぱい。春の雰囲気になっています。

〔編集後記〕
入学式のグラビアが初々しい今号のアカンサス。キーワードは「地域」です。県名ではなく都市名である「金沢」を名前にいただいた本学。今号で最終回となる「学都金沢・歴史探訪」を読み返すと、いかに地域の方々へ愛されてきたかがわかります。今や世界を視野に邁進する本学ですが、キャンパスが創学の地である金沢城内から角間へと移っても、初心は忘れない。そんな金沢大学でありたいものです。



桜 花舞う 入学宣誓式

金沢大学へようこそ



医学部十全講堂で行われた大学院の入学宣誓式

平成19年度入学者数

- 学 部：1,797名
- 専攻科：10名
- 別 科：39名
- 編入学：100名
- 大学院：838名
- 計2,784名



将来の夢は、
地球温暖化を止める。
そして地球を救うこと！
前野寿有さん〔教育学部人間環境課程〕

金沢大学では、環境学など、
専門外の分野もいろいろ
学んでみたいです。

小森香津枝さん〔工学部物質化学工学科〕

患者さんの痛みがわかる医師を
育てるという教育理念にひかれて、
金大医学部を志望しました。
小川太志さん〔医学部医学科〕



テニスサークルで活躍したいですね。
高校でもテニスに打ち込んでいました。
横井康伸さん〔工学部電気電子システム工学科〕

今ハマっているのはサークル見学。
まずは野球部を体験しました。
荒田陽平さん〔工学部機能機械工学科〕

歴史ある大学なので、
金沢大学を選びました。
でも、金沢のまちは
思ったより都会ですね
中西良太さん〔医学部保健学科〕



角間キャンパスは校舎がとても綺麗でした。

兄も金大生です。

藤村隆平さん〔理学部生物学科〕



厳肅な空気の中、真剣な面持ちで式にのぞむ新入生。
その瞳はまっすぐ未来を見つめている。



金沢のまちが春一色となった4月7日。金沢大学では、学部および大学院の「平成19年度入学宣誓式」が行われました。学部の会場となった金沢市観光会館には、朝早くから多くの新入生が来場。それにあわせて、アメフト部や水泳部などサークルの先輩たちもお祝いに駆けつけ、記念撮影のサービスマンや、新入生の勧誘合戦を賑やかに繰り広げました。

式では林勇二郎学長が告辞を述べ、その中で文豪・室生犀星が作詞した校歌の一節「天うつ波けぶらひ天そる白嶺の北方の都に」を学府のありて燦たる燈をかがけたりを紹介。白山山系を背景とした豊かな自然と文化が息づくこの地域で、学び、生活することの意義と、幅広い学問領域を持つ本学で主体的に学んでゆくことの大切さを伝えました。また、社会貢献活動においては3月に発生した能登半島地震への大学挙げての支援活動を取り上げ、一日も早い復旧のため協力を呼びかけました。

続いて、新入生を代表して経済学部・尾藤秀行さんが力強く宣誓。金沢大学フィルハーモニー管弦楽団が「威風堂々」を奏でる中、これからの大学生活をそれぞれが思い描く、希望に満ちた式となりました。

金沢大学の 社会貢献

Kanazawa University 金沢大学 × 地域
× Region

大学と地域が ともに高め合う

P06-07 学びの場づくりで地域を活性化
「地域を舞台にハワフルに展開 金沢大学社会貢献室」

P08-09 研究成果を毎日のくらしに還元
「楽々、手軽な「ユビキタス・ヘルスケア」で、治療型から予防型の医療へ」

「湯の郷に元氣を取り戻したい」「晶子染め」誕生秘話

P10-11 最先端の医療をより多くの人へ
「地域医療学講座の推進で、能登北部における医療の充実をめざす」

「最先端の医療を学び、生まれ育った北陸の力になりたい」

P12-15 知識と実践のスペシャリストに学ぶ
金沢大学の地域セミナー&サービス「ガイド」



自然とふれあい、里山のくらしを学ぶ「角間の里山自然学校」

大学は社会の発展のために研究を重視して取り組み、学生に対し教育を行い、地域に医療を提供しています。それも社会に対する貢献なのですが、大学本来の活動ということで、これまであまり意識されることがありませんでした。

先に紹介した3本の柱も、金沢大学の研究に根ざしています。里山プロジェクトは主に理系の先生が多く参加し、角間の里山に環境観測用のタワーを設置するなど、21世紀COEプログラム※とも深く関係します。「地域活性化プロジェクト」は文系の先生の分野です。地域経済塾や市民大学院、金沢学など、多様な視点から地域活性化をめざしています。「生涯学習」に至っては、様々な分野の研究成果を分かりやすく地域の方に公開するための場といえます。

新たな意味での社会貢献とは、研究に打ち込み、学生を教育し、その結果をたんに地域に還元するだけではなく、最初から地域の活性化を考えた教育研究活動を行う、ということです。そのため、大学と地域の総合窓口である「社会貢献室」を2002年に発足させました。まさに、社会貢献そのものを目的とした組織で、「里山プロジェクト」「地域活性化プロジェクト」「生涯学習」を3本の柱として、金沢市や石川県といった地域の枠にとられない、幅の広い活動を展開しています。

研究とリンクした意識的な社会貢献。それは地域を舞台として、地域の方々と交えた研究へと発展していきます。教員や学生が地域に入っていくことは、地域の活力を生み出し、そこで学部や学問領域を超えた繋がりが生まれるので、教員や学生の関係も豊かになります。つまり、社会貢献とは、大学と地域がともに高め合う関係を築くこと、と言い換えることができるのではないのでしょうか。

「大学と地域がともに高め合う
——意識的に行う社会貢献」

金沢大学 情報担当理事

橋本 哲哉

HASHIMOTO Tetsuya



金沢大学 社会貢献室 事業の3本柱

3 生涯学習

知的好奇心を満たす学びは、いくつになっても楽しいもの。高度に情報化された現代社会では、様々な知識にふれる機会が増え、学びを刺激されることも多い。金沢大学では、豊かな生涯学習をサポートするために、様々な講座を開設している。

金沢のまちなかに位置するサテライトキャンパス「金沢大学サテライト・プラザ」では、無料講義「ミニ講演」を開講。アンケートや世の中の情勢から、話題性の高いテーマを選んで、専門の教員が講義を行う。

「公開講座」はさらに本格的。多彩なテーマの中から受けた講義を選択でき、複数回の授業で専門知識がしっかりと身につくと受講者たちから好評だ。



上: 魅力的な20講座が用意されている「公開講座」
下: 参加無料の「ミニ講演」。会場はまちなかのサテライト・プラザで、交通アクセスも良好

2 地域活性化プロジェクト

加賀百万石の歴史を受け継ぐ石川県は、様々な文化を発信する創造力にあふれた地域。その独特の地域性に着目し、文化を、経済をより活性化させるのが、このプロジェクトの目的である。

日本文化の体験講座「金沢学」をはじめ、地域に関連したテーマを深く掘り下げる「市民大学院」、北陸経済の特質を学びマネジメント能力を育成する「地域経済塾」の企画運営など、金沢大学の知を結集した多彩な講座で構成されている。

また、石川の観光立県としての側面に注目し、県内の観光資源掘り起こしと活用プログラムづくりや、まちづくり団体と連携した実践的な教育・研究体制の構築を行う「観光学・まちづくり」も行われている。



上: 取り組み事例の発表やワークショップが行われた「観光学・まちづくり」の「学生まちづくりサミット」
下: 留学生も金沢通になれるのが、「金沢学」の魅力

1 里山プロジェクト

金沢大学はキャンパス内に70ヘクタールの里山ゾーンを持つ自然豊かな大学。その里山ゾーンを開放し、研究や教育に利用してもらうのが、このプロジェクトだ。

教育分野では「角間の里山自然学校」の企画運営など、子どもたちが自然にふれあう場として利用。研究分野では動植物を対象としたものや、観測タワーを建て大気の観測を行うなど、様々な活動が行われている。

2005年には、旧白峰村から移築された300年の歴史を持つ古民家が、金沢大学創立五十周年記念館「角間の里」として生まれ変わり、以来、教育研究活動の拠点として多くの人々に活用されている。また、能登半島の珠洲市では「里山里海自然学校」がスタート。身近な自然をキーワードに活動の輪が広がっている。



上: 里山の保全を通して、自然とのかかわりを学ぶ
下: 棚田の田植え。秋には杵と臼を使っての昔ながらの餅つきが行われ、参加者たちから歓声があがる



上: 社会貢献室の会議風景。月に2回開催され、オープンな雰囲気の中、様々な意見が飛び交う。役職を問わず関係者なら誰でも参加が可能だ
中: 「観光学・まちづくり」の「地域づくり学生インターンシップ」。学生を地域に長期派遣することで、新しい視点からの意見やアイデアが生まれ、将来、地域づくりを担う人材育成が期待される
下: 創立五十周年記念館「角間の里」。自然にとけこむ風格ある体験施設にはレトロな炭ストーブがあり、増えすぎた竹を伐採して作った竹炭を燃料にしている。2006年6月に金沢都市美文化賞を受賞

地域を舞台にパワフルに展開 金沢大学「社会貢献室」

大学と地域。両者がよりよい関係で結ばれるよう、本学では2002年に、その総合窓口となる「社会貢献室」を立ち上げた。

現在、中核となるメンバーはおよそ20人。その役割を一言で表現すれば、地域と大学の接点役である。地域連携コーディネータを総合窓口として、教職員や学生と一緒に、地域の人々の要望に応え、その事務作業も引き受けている。「地域で講演会をお願いしたいけれど、先生と面識がないのです」「諮問委員会を立ち上げたいのですが、どの先生がふさわしいでしょうか?」。これまでは、教員と個人的な繋がりを持った人だけがかけてきた依頼や相談の電話。今では先生を知らない人も、社会貢献

室に気軽に問い合わせようになり、新しいネットワークが次々と生み出されている。

もちろん、社会貢献室は地域の人のアクションを待っているだけではなく、生を声をつくりと聞くタウンミーティングは、すでに6つの市や町で開催されている。「千里浜海岸の浸食を防ぐにはどうしたら良いか?」「新しい特産品の開発に協力してほしい」など多くの声が寄せられ、金沢大学に対する期待の大きさを感じている。

また、情報誌「地域とともに」は学生の編集委員たちが作成。取材で地域に入ることも多く、新しい学びと交流のきっかけとなっている。

金沢大学 社会貢献室

<http://cr.lib.kanazawa-u.ac.jp/>

Kanazawa University × Region 金沢大学 × 地域

学びの場づくりで 地域を活性化

大学と地域をつなぐため、学部を越えて展開する金沢大学の社会貢献活動。総合窓口である社会貢献室とその活動にスポットをあてる。



圧力検知版は枕の下。
データは随時パソコンに
送られる

自然科学研究科

山越 憲一 教授

Professor YAMAKOSHI Ken-ichi

楽々,手軽な「ユビキタス・ヘルスケア」で,
“治療型”から“予防型”の医療へ

21世紀。高齢社会に突入した我が国では、4人に1人が65歳以上という時代がもうすぐそこまで来ている。そうは言っても昨今の高齢者は多くの方が健康で、定年後、第2の人生を謳歌しているケースがほとんどだろう。しかし、当人が気づかないうちに少しずつ不具合が蓄積していき、ある時、自覚症状となって現れるのが病気だ。

現在の医療は、病気になってから「治療する医学」のほうが、病気にならないよう日頃から「予防する医学」より、圧倒的に割合が大きい。予防とは健康な時に行うもの。どこも悪くない時に、わざわざ時間を割いて健康診断を……とくれば、つい先送りにしてしまったり、うつかり忘れてしまったりする。

そこで、山越憲一先生は「無侵襲生体計測法」なるものを開発した。忘れがちな健康チェックを、この際、完全に忘れてもらおうつまり言い換えれば、本人の気づかない間に健康チェックをしてしまおうという技術だ。

たとえば使い慣れたベッドで眠る。その下には薄い圧力感知板が仕込まれており、心拍・呼吸・いびき・体動を計測。本人が病院に行かなくても、社会問題となっている睡眠時無呼吸症候群のスクリーニングもできてしまうという仕組みだ。

一定時間、同じ姿勢をとり続けるトイレは、先生曰く「健康診断にはもってこいのスポット」。床には体重計が組み込まれていて、体重および排泄量がわかる。また、便座部分の接触圧センサーによって、太ももから血圧が測定できるのだ。



プロフィール

早稲田大学修士課程を修了。卒業論文で心臓の補助循環を研究し、以来一貫して生体計測や生体制御、生体機能の解析などの“医用生体工学”研究に打ち込む。取材時、山越研究室では15ものプロジェクトが同時進行していた。
<http://www.hm.t.kanazawa-u.ac.jp/lab/biomed/biomed.html>

Kanazawa University 金沢大学 × Region

研究成果を 毎日のくらしに還元

多岐にわたる研究分野から、
毎日のくらしをテーマに活動続ける研究者たち。
身近な生活の中にある先端のテクノロジーを感じてほしい。



今号の取材に協力してくださった研究室の皆さん

一日の疲れを癒すバスルームでも、生体計測は可能。浴槽に電極を配置することにより、心臓から出てくる微弱な電気現象をキャッチ。これで心電図がとれてしまうという。同時に呼吸も計測しており、高齢者や飲酒後の水没事故も予防できる。

これらの装置を使えば、毎日健康チェックを受けているのと同じ効果が得られる。そこに病気の原因が隠れていても、蓄積されたデータから自覚症状のないうちに判断することが可能になるのだ。



浴槽内の電極が生体の微弱な電気現象を感知。心電図や呼吸の波形を正面モニターに映し出す

将来的には新たなシステムを開発し、人間ドックに匹敵するデータを収集できるようにしたいと語る先生。また、システムを小型化し、衣類にも組み込めればあらゆる場所で健康チェックが可能になる。「このシステムが普及すれば、いつでもどこでも健康チェック、つまり「ユビキタス・ヘルスケア」が可能になると同時に、「治療型」から「予防型」へ医療が変化します。病気は早期発見されるようになり医療費も大幅に削減されるでしょう」。

いくつかになっても健康に。先生の研究は、世界共通の夢をかなえると同時に、少子高齢社会の医療費問題まで解決してしまう可能性を持っているのだ。

自然科学研究科

田崎 和江 教授

Professor TAZAKI Kazue



プロフィール

地球環境科学、粘土科学、電子顕微鏡学、温泉科学、生体鉱物学と幅広い専門領域を持つ。この春には、バイオマットの研究と「ゆったり湯学」の教育、そして社会貢献を目的とした“足湯”が角間キャンパスに完成した。
<http://kankyo.s.kanazawa-u.ac.jp/>



角間キャンパス内に足湯が完成！誰でも自由にすることができる

湯の郷に元氣を取り戻したい
「晶子染め」誕生秘話

片山津温泉の源泉に、緑茶パックを入れて煮る。そこに絹の布を入れ、柴山湯の湖底土で揉むこと数分。絹は美しい紫色に変わる。30分も浸けておけば、歌人・与謝野晶子が「うすむらさきの波うごく」と詠んだ、柴山湯を髣髴とさせる染物が出来上がる。これが加賀温泉郷のひとつ、片山津温泉活性化のために田崎和江先生が考案した切り札だ。「私はいつも、現場の身近なもので勝負するんですよ」。先生はその研究を一言で説明してくれたが、「湖底泥＋緑茶＋温泉＝紫の染物」という組み合わせの発見には、実はこんな秘話があった。



おしゃれなクッションや風呂敷。この美しい紫が晶子染めの特徴だ。野草との組み合わせも研究が進んでいる

そして、まちおこしに訪れた片山津。そこでもやはり、温泉という、自然の産物を徹底的に調べ上げた。湯を分析して流れを調べ、地形も調査する。すると目がいくのは柴山湯。その湖底泥の成分を分析した時、「晶子染め」が誕生した。

「データを見た時、あれ？どこかで見た数値だなと思ったんです。染色のメカニズムはすでに解明済みだ。あとはそれに足りない成分を加えるだけ。温泉と緑茶を選んだのは、それが、現場の身近なものだったから。

このように、現場にこだわる田崎研究室は大学を飛び出している調査が多い。もちろん学生も同行する。同時並行で様々な作業を行う先生の切り替えの速さは、学生もついて行けなくなるほどだと言う。

研究を通じて、先生が必ず学生に教えることがあるという。それは「結果を発表しなさい」ということ。「私たちは世の中のために研究してるんだから、還元しなくてどうするの！」。得た知識を、地域にかえす。その思いは先生が「現場」にこだわる理由であり、「晶子染め」を生み出した原動力なのかもしれない。

研究室の学生もチャレンジ。
誰でも気軽に取り組めるのも魅力のひとつ



自然科学研究科のエントランスホールに出現した晶子染めの大作



INTERVIEW

最先端の医療を学び、
生まれ育った
北陸の力になりたい

金沢大学医学部附属病院 研修医

柄田 智也

TSUKADA Tomoya

大学進学に際して、金沢大学を選んだ理由は？

福井県出身だったので、漠然と北陸に残りたいと思いました。

多くの新人医師が一般病院での研修を希望しています。大学病院での研修を選んだのは、どうですか？

学術的にしっかりと勉強ができ、臨床においてもしっかりと医療を行うことができる医療者になりたいと思い、金沢大学医学部附属病院を選びました。初期臨床研修は、大学が用意したプログラムから、大学病院と一般病院である富山県立中央病院で1年ずつ研修を受けるものを選びました。

大学病院での研修はどうか？

一般病院に比べ、大学病院では若手に執刀の機会がないと思われています。しかし、研修医として3年目の自分は、厳しい指導がついた執刀の機会に恵まれています。若手をトレーニングするシステムが整いつつあり、大学病院が変わってきているのを感じます。

2007年度は七尾市内の病院に赴任するそうですね。

1年間赴任します。病院にはそれぞれ得意分野があるので、異なる分野の勉強ができると期待しています。

御自身の今後の展望をお聞かせください。

一人前になるために、今は一生懸命やるだけです。生まれ育った北陸に愛着があり、この場所で力になりたい、最先端の医療を提供していきたいと思います。

プロフィール

金沢大学医学部を卒業。現在は博士課程に在籍しながら、附属病院で後期臨床研修を受けている。2007年4月からは、七尾市内の医療機関に赴任。



調査地である能登北部地区・穴水町の風景(写真提供:「医心」)

1. 能登北部の現状調査

能登北部地区の現状調査と、医療過疎の状況をどういう対策と方針で解決するのかを探っている。4つの総合病院が点在しているが、専門医が十分に足りておらず、専門外来が開けないなど弊害がある。「現実的であり経済的であり、マンパワーを有効に使える方策を探っています」。



石川先生が左手に持つ機械で画像データをスキャンし、それを右手に持つ携帯電話やパソコンに送ることができる

講座は4つの柱で構成され、調査を進めながら診療も行っている。

2. 遠隔医療システムの開発

IT技術とネットワークを利用した遠隔診療システムを開発している。「触診ができないのは大きなデメリットですが、検査や画像データ、聴診の音も送れます。これができれば、医者が能登に行かなくても、能登の患者さんがわざわざ金沢に行かなくても、専門外来で診察することができず。アメリカではすでに実践されています」。

3. 能登北部での専門外来の開設

能登北部地区は、今すでに医師不足に直面している。そこで先生は専門外来を開き、検査・手術のお手伝いをしている。

4. 地域医療へのトレーニング

患者さんの負担が少ない最新の外科手術は、症例の多い病院なら当然行われており、若手医師が勉強する機会もある。しかし能登では症例が少なく、教育システムもない。そこで若手医師を対象に内視鏡手術などのトレーニングコースを開催している。「術後の負担が小さい、傷跡が小さいといった患者さんのためになる手術は、医師の負担が大きい高度な手術。しかし、患者さんに負担なく治るよう努力していくのが医師の務めです」。

石川先生に聞く
— 金沢大学が行う「地域医療学講座」とは？ —

全国的に「医師不足」が叫ばれている中、「地域医療」は変革を迫られている。長年にわたり、北陸地域の医療の中核を担ってきた金沢大学医学部附属病院では、どのような取り組みが行われているのだろうか。

最先端の医療を
より多くの人へ

Kanazawa University x Region	金沢大学 × 地域
---------------------------------	-----------

石川県の現状と本学の取り組み

県内では特に能登北部が深刻な医師不足に悩んでいる。石川県全体の医師充足率は125.5%だが、能登北部地区では81.5%と低く、診療科によっては十分に医師が確保できていない。

そこで、このような状況を調査研究し解決するために、石川県の寄附により本学大学院に開設されたのが、石川紀彦先生が特任教授を務める「地域医療学講座」である。そこには、かつて先生がロボット外科を学ぶために渡米した経験が生かされている。

地域に開かれた附属病院を
目指して

こうした研究活動とあわせて、金沢大学附属病院では地域の患者さんの受け入れをよりスムーズにするための改革を進めている。院内の「地域医療連携室」では、地域の診療所や病院との連携をより強めることに力を注いでいる。「地域の病院が患者さんを紹介しやすく、紹介された患者さんがブライオリティを持てるような仕組みをつくっていききたいです。確かな技術と、時代に即応した柔軟な医療サービスでこれからも地域への貢献が続く」。



能登地区の若い医師たちを対象に内視鏡手術のトレーニングを行う。人材育成にも積極的に取り組んでいる

「地域医療学講座」の推進で、
能登北部における医療の充実をめざす

プロフィール

金沢大学博士課程を修了。アメリカ留学中に大きな医療センターと地域の診療所が連携する地域医療のあり方を目にする。留学中に会った言葉「Where there's a will, there's a way. (意志があるところに、道は開ける)」が座右の銘。医学部附属病院 <http://web.hosp.kanazawa-u.ac.jp/>

大学院医学系研究科 地域医療学講座 特任教授
医学部附属病院 地域医療連携室 副室長

石川紀彦 特任教授

Professor ISHIKAWA Norihiko

技術者が学ぶ金沢の企業経営 金沢MOT塾

MOTとは“技術経営”と訳されます。当塾では「財務諸表を熟知したエンジニア」「知的財産権に精通した開発者」を目指す技術者を対象に、強い競争力を持った企業経営の基本を学ぶことができます。本学のMOTは地元・金沢での開講にこだわり、北陸地域の一流企業の経営者・企業家・官公庁の方を講師に招き、技術経営力の向上について教授いただきます。自社の技術が持つ新たな可能性を本学MOTで発見してください。

期間 平成19年4月12日より開講
場所 自然科学本館
お問合せ 角間南地区事務局 学生課
TEL (076)234-6831
E-mail:gakumu3@t.kanazawa-u.ac.jp

自らを高める、本格的な学びを 公開講座

多様な情報にみちた現代社会では、様々な疑問や興味が生活の中で生まれています。一人ひとりの“知的好奇心”に応えようと、金沢大学では文系・理系・医系あらゆる分野のスペシャリストたちが公開講座に集結しました。地元金沢を学ぶ講座や、高校生のための講座、子どもを託児室に預けて受ける子育て講座など、地域のすべての方を対象に、じっくりと、時間をかけて学ぶ先端知識がここに 있습니다。

お問合せ 大学教育開放センター
TEL (076)264-5272・264-5273 FAX (076)234-4045
E-mail:kaihou@ad.kanazawa-u.ac.jp
http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/kaiho_c/kouza.htm

里山で学ぶ自然といのちの体験 角間の里山自然学校

角間キャンパスには、かつて人々の生活を支えた“里山”と呼ばれる空間が今なお残っています。大人も子どもと一緒に、身近な自然と触れあって、その恵みを受け取る。それが里山自然学校の活動です。春は棚田で田植えをし、秋には収穫された米で餅をつきます。成長の早い竹を伐採し、竹炭をつくります。冬は雪に残された動物の足跡を観察します。地域の里山サポーター「角間の里山メイト」が活動をバックアップ。自然に触れ、いのちを学ぶ機会です。

内容 四季折々の自然観察や保全活動、農林活動
期間 通年
活動日 第2・第4土曜日(月2回) 9:00～12:00
集合 金沢大学創立五十周年記念館「角間の里」
持ち物 里山で活動できる服装・靴、飲み物(必要な人)
お問合せ 角間の里山自然学校事務局 TEL (076)264-6698

「つよい北陸経済」づくりを 地域経済塾

ビジネスをとりまく環境の変化は日々加速し、組織にも個人にも環境変化への迅速・的確な対応が求められています。そのためには、より高いビジネスの「基礎体力」と「応用能力」がますます必要となります。「金沢大学地域経済塾」は、受講者の理論やテクニック、スキルの向上を図るとともに、受講者・修了者のネットワーク形成によって“つよい北陸経済”をつくっていくことをめざしています。大学の最新の研究成果を織り込んだ講座を受講されることによって、ビジネスに新しい展開が期待できるでしょう。多くの方が受講されることを期待しています。

お問合せ 経済学部 地域経済情報センター
TEL (076)264-5438 FAX (076)264-0320
E-mail:cures@kenroku.kanazawa-u.ac.jp



大人も子どもも、みんな学生になろう！金沢大学は、あなたの探究心、好奇心、興味を応援します。

知識と実践のスペシャリストに学ぶ 金沢大学の地域セミナー & サービス【ガイド】



まちなかで気軽に触れる最先端 ミニ講演

金沢大学の教員が研究成果を地域に還元すべく、金沢大学サテライト・プラザで行う講演が「ミニ講演」です。テーマは受講者のアンケートや時事問題から選ばれ、その道のスペシャリストが、最先端の研究を分かりやすく解説します。参加は無料。事前の申し込みも必要なく、誰でも気軽に聴講することができます。質疑応答の時間もあり、日ごろの疑問を大学教員にぶつけるチャンスでもあります。

日時 原則として第3土曜日 14:00～15:30
場所 金沢大学サテライト・プラザ
お問合せ 金沢大学サテライト・プラザ
TEL (076)232-5343 FAX (076)232-5383
E-mail:satellite@spacelan.ne.jp

3つの専攻で地域を学ぶ 市民大学院

文学・宗教・民俗・歴史。学問的にも深い造詣を持つ北陸地域を紐解いてみたい。そんなニーズに応えるのが市民大学院です。野外調査を行うフィールド文化学専攻。文献を読み解くテキスト文化学専攻。世界に視野を広げる国際交流史学専攻の3分野で、専門的な学びに挑戦。研究成果は「金沢大学市民大学院論文集」として刊行し、優秀な論文には、学会誌への掲載を後押しします。また、大学院の社会人入学を目指したいが、テーマや研究方法に自信がないといった方の支援も講義を通じて行います。

期間 平成19年4月～平成20年2月
場所 金沢大学サテライト・プラザ
お申込 文学部 金沢大学市民大学院事務局
お問合せ TEL (076)264-5333 FAX (076)264-5356
E-mail:simindai@kenroku.kanazawa-u.ac.jp
http://cr.lib.kanazawa-u.ac.jp/shimin/

このほかにも基礎知識の習得の場として短期特別集中ゼミ、基礎講座、特別講座を公開講座として随時開講しています。詳細は市民大学院事務局までお問い合わせください。

学んで、ふれて。金沢文化 いしかわ金沢学

美しい歴史に彩られた都・金沢。その歴史と伝統を存分に体験し、学術的視点からじっくりと学ぶことができるのが本講座の特徴です。留学生の伝統文化体験や、子どもたちの和菓子作り体験、大人の“地酒学入門”など、内容も対象も多彩です。県と市と大学。その3者が「いしかわ金沢学教育研究会」を定期的に開催し、成果をカリキュラムに反映させています。地域文化に触れてみたい方も、すでに金沢通の方も、いろんな方にお勧めしたい文化体験学習講座です。

お問合せ 留学生センター
TEL (076)264-6195 FAX (076)234-4043
E-mail:knzw_studies@isc.ge.kanazawa-u.ac.jp
http://cr.lib.kanazawa-u.ac.jp/kanazawa/

能登のひとと自然の営みを、地域と大学が守る 能登半島里山里海自然学校

能登半島で長年培われてきた豊かな自然とのふれあい。少子高齢化で失われつつあるその営みを、金沢大学は三井物産環境基金の支援を受け、奥能登で活躍する多彩な人材と協力しながら、守り、そしてよみがえらせます。半島フォーラムへの参加など、廃校となった珠洲市旧小泊小学校校舎を拠点に、若き常駐研究員“キノコ博士”こと赤石大輔さんが活躍中！自然を守る活動を軸に、人との繋がりを生み、地域文化を活性化させる取組みが今、能登でも始まったのです。

里山里海メイト募集中！

内容 自然学校周辺のビオトープや雑木林を整備。草刈りや歩道の整備など保全活動も行います。月1回定期活動の予定。
お問合せ 能登半島 里山里海自然学校(10～16時)
TEL&FAX (0768)88-2528
http://www.satoyama-satoumi.com/



地域から
世界へ
金沢大学の
国際貢献

イタリア・フィレンツェの至宝を金沢大学が守る！ サンタ・クローチェ教会の 壁画修復プロジェクト

ミケランジェロやガリレオなどが眠るサンタ・クローチェ教会。その大礼拝堂には、アーニョロ・ガッディが1380年頃に描いたフレスコ壁画「聖十字架物語」があります。現在、この壁画の修復プロジェクトを統括しているのが教育学部の宮下孝晴教授（専門：イタリア美術史）です。日本の篤志家の寄附により、フィレンツェ修復研究所と協力して作業を進めながら、2009年末の完成をめざしています。金沢大学の研究活動が、世界的な文化遺産の保護と美術史研究の発展への寄与することが期待されています。



リーガル・クリニック 法科大学院無料法律相談

法科大学院の大学院生が弁護士の指導のもと、直接依頼者に相対し相談業務を行う実務教育。それがリーガル・クリニックです。大学院生の教育の場という位置づけですが、相談時間は一般的な無料相談の倍の60分を確保。金沢弁護士会所属の指導弁護士が相談への対応について大学院生を指導し、かつ、大学院生の助言内容について責任を持ちます。また、大学院生は守秘義務を負っていますので、相談に際して得た個人情報や他の秘密が漏れることはありません。

日時	5月：12日，19日，26日 6月：2日，9日，16日，23日，30日 7月：7日，14日 8月：4日，11日 9月：1日，8日
場所	金沢大学サテライト・プラザ
お問合せ	角間北地区事務部学生課 TEL (076) 264-5968 ただし，8月13日～15日まで一斉休業（予定）のため受付できません



草花が癒すところとからだ 園芸療法

草花を育てることで、こころとからだを癒す。園芸療法では、日光や風、鳥の鳴き声や葉擦れの音、遠くに見える山々や雲の動きなど、自然の恵みをふんだんに活用する、あらゆる人たちに適用されうる“補完・代替医療”なのです。平成18年7月から3年計画で医学部保健学科の安川緑准教授が効果を実証中。土に触れ、色や匂いを感じ、体を動かし、人や植物と交流する。これまでの研究では、骨密度の上昇や生活の質の向上、脳血流量や認知機能の改善など様々な効果が確認されています。

期間	平成19年7月から10月を予定しています
場所	医学部保健学科中庭
お問合せ	医学部保健学科 安川緑准教授研究室 TEL (076) 265-2559 E-mail:midori@mhs.mp.kanazawa-u.ac.jp



知識と実践のスペシャリストに学ぶ 金沢大学の地域セミナー & サービス【ガイド】



楽しく学ぶ、金大理工系のすべて！ ふれてサイエンス・てくてくテクノロジー

太古の地球や宇宙の彼方。微生物や、見たこともない不思議な生き物。光通信やコンピューター、そしてロボット。金沢大学が誇る最先端の科学と、テクノロジー。それらを身近に感じられるのが、「ふれてサイエンス」と「てくてくテクノロジー」です。金大祭と同時開催されるこの催しは、体験コーナーも満載。大人から子どもまで楽しめること間違いなしです。平成20年度よりスタートする理工学域のこともよく分かるので、受験生も必見のイベントです。

日時	平成19年11月3日（土・祝）（予定）
場所	自然科学棟
お問合せ	角間南地区事務部総務課 TEL (076) 264-6825 ・ 264-6830

医療を支える看護師の皆さんへ ナースのたまご・ひよこサロン

より良い地域医療。その中で大切な役割を果たしているのは看護師の皆さんです。金沢大学では新人看護師と学生の交流の場にと「ナースのたまご・ひよこサロン」をオープンしました。“たまご”は看護学生，“ひよこ”は新人看護師です。明るい雰囲気でのサロンで、たまごナースが先輩看護師と気軽に対談。現場に対する不安や疑問も解消します。もう一度現場に戻ろうと考えている方にとっても、現在の病院の様子を知るよい機会になります。雑誌やパンフレット、就職情報も満載。ぜひ一度お立ち寄りください。

日時	平日12:00～14:00
場所	医学部附属病院 西病棟1階（北玄関右隣）
お問合せ	病院部総務課総務係 TEL (076) 265-2000



弓道部の活躍はここで！
<http://kanazawaqdo.hp.infoseek.co.jp/>

心のありようが、技となって表れる
 精神修養の世界

弓道部

北信越大会を控え、弓道場は緊張感に満ちていた。足を踏み開き、弓を持ち上げる。雪が降り、寒風を身に受けているのに、的を見据えたまま微動だにしない。数秒後、離された矢が見事的に当たると、部員たちから拍手が起こった。雪が降る中での練習を副将の野澤有理さん(文学部3年)は「もちろん寒いですが、弓を引いている時は寒さを感じません」と語る。それほど精神の集中が求められる。

「練習してもうまくいくわけではなく、気持ちに左右されます。当たらずにイライラすると、ますます当たらなくなる。そうするとどんどん気持ちが病んでいきます」と部員たちは異口同音に言った。この悪循環に陥ると、何日も落ち込み続けることになる。「自分の射について先輩に聞く、友達に見てもらい、自分で鏡で見ている時は寒さを感じません」と語る。それほど精神の集中が求められる。

苦しい時間でもあるが、主将の吉田侑史さん(法学部3年)はこうして射が良くなっていくことが、弓道の面白さだと考えている。

サークル紹介

伝統の加賀宝生流から、
 日本文化の奥深さを学ぶ
 宝生会

「せっかく金沢に来たのだから、金沢らしいことをしてみたかった」。能と狂言のサークル「宝生会」のメンバーに入部の動機を尋ねると、こんな答えが返ってきた。メンバーのほとんどは、大学に入るまで能を観たことすらない。初めての『謡(能の詞章やせりふ)』の練習では、「とにかく声を出してと言われるのですが、お経のような謡を大きな声で歌うのは難しかった」。邦楽の音階は独特で難しく、楽譜の歌詞は草書で書かれていて、読むこともできない。「習うより慣れろ。耳で覚えろ」。謡が出来ようになるまで、ずっと舞や囃子を習うことができた。「練習で初めて舞台上に上がったときは、本当に緊張しまし

た。下から見るとよりも広くて、とても孤独で」。

月に3回、シテ方宝生流能楽師・渡邊茂人師範から謡と舞の指導を受ける。高校時代から能を鑑賞していた会長・今村梓さん(医学部4年)は、「高校時代は何をやっているか分からないまま、いいなと思っていました。今は稽古を受けているときに、先生からぼろっと意味を伝えられます。何よりも、能の世界を演じるそのことが本当にいい!」と言う。木に登る植木職人が「謡」を口ずさみ、「空から謡が降ってくる」と言われたほど能が盛んな金沢。メンバーたちは、今ここでしかできない能楽をこころゆくまで楽しんでいる。



宝生会の活躍はここで！

- 全国宝生流学生能楽連盟自演会
開催日:2007年6月23・24日 会場:金剛能楽堂(京都市)
- 能楽発表会
開催日:毎年1月～3月の1日 会場:石川県立能楽堂(予定)

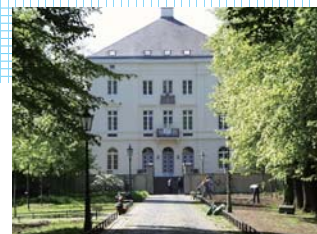
<http://kanazawahosho.web.fc2.com/>

和のサークル特集

金沢の伝統文化をいまに受け継ぐ

現在、金沢大学には、文化系サークルが40、体育系サークルが41あり、2,500名以上の学生が所属しています。

http://www.ad.kanazawa-u.ac.jp/ad_gakusei/student/club/



ハインリヒ・ハイネ＝デュッセルドルフ大学
<http://www.rz.uni-duesseldorf.de/>

Graduate Interview

卒業生インタビュー

留学で人生の扉が開かれた！

子どもの頃から文学に関心があった前先生は、大学進学にあたり、世界文学の中でも特に哲学的な要素が強いドイツ文学を選んだ。入学した1969年は学生運動の最盛期。東京大学では学生が校舎を占拠し、入試が中止されていた。「金沢大学でも、あまりきちんとした授業がないような状態でした。学生同士の議論が盛んで、大学教育や社会について考える時間が多かったですね」。

大学院へ進学し、金沢城内のキャンパスでじっくりと文学に向き合う6年間を過ごす。その後ドイツのアデナウアー財団の奨学金を得てドイツへ留学。言葉にはそれほど苦労しなかったが、コミュニケーション

新風を起しながら、
 グローバルな世界へ飛び込む

博士論文を執筆中に、比較文学と比較文化心理学を学び、研究の中心が次第に日本研究へと移っていった。その仕事の実り、1984年にマールブルク大学の日本研究センターの講師に、1993年には公募によりデュッセルドルフ大学の教授に就任。そして

の違いには苦しめられたと言

う。日本では控えめであること

とや遠慮することが良いこと

であり、そうしたことが自然と

身についていました。しかし、

ドイツでそうしていると意見

がないのではないかと、時には不

審に思われることさえありま

した」。



ドイツ・デュッセルドルフ大学 教授

前 みち子

Professor MAE Michiko

修士課程修了と同時にドイツへ留学。
 ドイツ・デュッセルドルフ大学で女性初の副学長を務めた
 前みち子先生は、石川県で生まれ育った、金沢大学の卒業生だ。
 日独社会科学学会で金沢大学を訪れた先生にお話をうかがった。



ハイネ像
 詩人・作家・ジャーナリストである
 ハインリヒ・ハイネ。デュッセルドルフ大学の正式名称であるハイン
 リヒ・ハイネ＝デュッセルドルフ大
 学は彼の名に由来。

写真提供: ドイツ観光局

で、これもまたチャンスだと思

い、やってみよう。金沢から世界へと飛び立っていった前先生。現在の大学生たちにも世界へと飛躍することを期待している。「世界的な情勢を見て、国際的に発展できるような生活を考えてみてくだ

さい。学生時代というのは非常に貴重な時間。そのときしかできないことがたくさんあります。いろいろな問題について集中して考えたり、本を落

ちて読んで読んだり、遊んだり。ま

とまって勉強できる時間も大事にして欲しいです。そして、

ぜひ短い期間でもいいので海外に出かけてみてください」。

前みち子教授 プロフィール

1951年生まれ。石川県出身。金沢大学法文学部、大学院修士課程を修了後、ドイツへ渡り、博士号を修得。1995—2001年までデュッセルドルフ大学副学長を務め、現在は東アジア研究所長を務める。専門は文化論とジェンダー研究。著書は『ドイツの見えない壁—女が問い直す統一—』(共著)他多数。

INTERVIEW

歴史家ではなく化学者！

「学都金沢・歴史探訪」著者
板垣英治先生の素顔に迫る

戦後の「新教育制度」が始まった最初の年に中学生となった先生。名古屋大を卒業、大阪大大学院を修了し、アメリカへ留学した後、1968年に本学・薬学部の新設講座の助手として赴任しました。当連載では「明治以来の高等教育」の歴史を綴ってきましたが、実は生物化学が専門の化学者です。得意分野はバクテリアが持つ酵素の研究で「加賀藩の五箇山での塩硝生産がバクテリアを利用したものであった」という新聞記事が歴史研究への入り口となりました。

面積を測定し、自作ソフトで新しく建てられる理学部の研究室、廊下等の計算を行います。そのため、角間の理学部の建物にはひとしお愛着があるそうです。他にも1980年に金沢大学初の中国人留学生を4年間お世話した思い出や、JICAの依頼でアフリカ・ウガンダに行き、首都の大学に理学部の建物を無償供与する計画へ参加したり、タンカー重油流出事故で重油分解細菌の調査・分離を行うなど、ご自身の研究以外にも様々なことを手がけてこられました。



プロフィール

1934年兵庫県生まれ。現在は金沢大学名誉教授、同大TLO代表取締役、同大資料館客員研究員。研究・著作は「加賀藩の火薬、塩硝の調査・研究」「金沢医学館でのスロイス、ホルトルマンの医学教育の調査・研究」「硝石の舎密学と技術史」など多数。

04 03 02 01
昭和30年（1955）頃の学部配置図。
工事中の教養部。昭和38年（1963）。
制服姿の学生が行き来した校の通学路。
昭和50年（1975）頃の城内キャンパス。



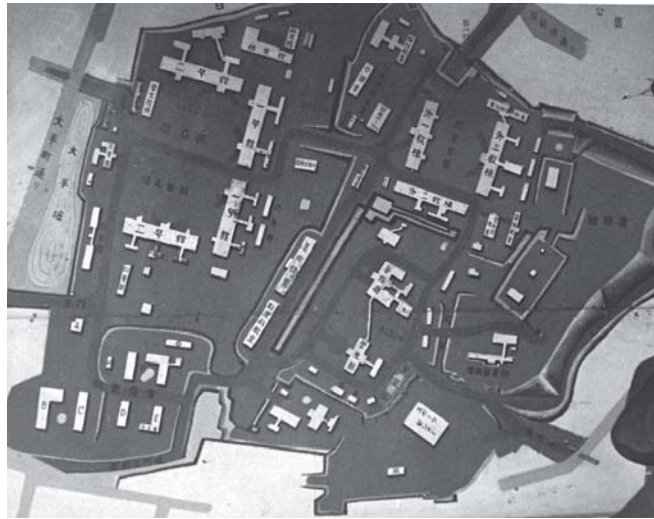
02



03



04



01

金沢大学名誉教授
ITAGAKI Eiji
板垣英治

明治5年（1872）の学制改革以来の大改革が、昭和20年8月の戦後のわが国の教育界を襲った。連合国軍總司令部（GHQ）はこれまでの教育制度をすべて廃止して、新制度の教育——いわゆる6・3・3制教育を行うことを勧告した。これに伴い各都道府県の公立旧専門学校や高等学校が廃止され、新制度に則した大学が設置されることになった。金沢では第四高等学校、金沢医科大学、石川工業専門学校、石川師範学校、石川青年師範学校、金沢高等師範学校を廃止し、新大学設置基準に基づき、昭和24年5月に新たに男女共学の総合大学として「金沢大学」が発足した。

202名中、新任はわずかに32名であり、他は旧制学校からの者であった。しかし、当時のわが国の戦後の経済状態は良い状態ではなく、高等教育を受けることも容易なものではなかった。旧制度の学校が統合して新大学が生まれたために、一番頭を悩ます問題はキャンパスであった。全国には「たこ足大学」の異名を持つものが多くあったが、本学も医学部と薬学部は宝町に、工学部は上野町、理学部は旧第四高等学校跡の仙石町に、教育学部と法文学部、大学本部は旧第九陸軍師団跡の城内に旧兵舎を使用しての開学となった。全国の大学には、町中で自然環境に恵まれ、タヌキが住み、ギフチョウが舞う城跡の敷地にキャンパスを置くものは他にはなかった。これまでもとで城内キャンパス移転の際に「お城の中にある大学を求めて金沢に来る学生がいるから、移転は反対だ」との意見を述べる教員がいた。戦後の大学キャンパスの整備は遅々としたものであり、城内の旧兵舎を使用していた。その当時の学部の配置図を示す（01）。

戦後の高等教育の変遷は、本学では昭和38年にまず理学研究科修士課程の設置と、続く他の研究科修士課程の設置があり、さらに昭和60年に自然科学研究科博士課程が設置され、はじめて旧制大学と同等なものとして教育・研究の環境が整えられた。（02・03・04）城内キャンパスの角間キャンパスへの移転は、昭和55年11月に決定され、法・経・文3学部、総合図書館が平成元年に、理学部、教育学部、本部は平成4年に、翌年には教養部が移転した。さらに平成17年に薬学部、工学部の移転が行われ、初めて総合大学としての姿ができあがったのである。

最後に、この移転に携わった筆者は戦後の教育制度で学んだ一人であり、長かった戦後の教育改革がやっと終わったと深く感じている。しかし、大学が法人化され新たな改革が求められているのが現状である。本学の大いなる発展を強く期待し筆をおく。

退官後始まった加賀藩の歴史研究もまだまだこれから。今後も精力的に、金沢と大学の歴史、そして未来を見つめ続けます。

次なる数百年に
「知の系譜」を伝える

其の八 最終回

金沢大学

1862年 金沢大学の源流となる種痘所を加賀藩が設置
1887年 第四高等学校が設置
1949年 新制金沢大学が金沢城内に発足



教育学部校舎

1955年 金沢大学初の大学院として医学研究科博士課程を設置

1956年 金沢大学初の国際交流協定をペンシルバニア大学と締結



ペンシルバニア大学学長と戸田学長（左）

1963年 38豪雪



法学部の建物内部に吹き込んだ雪



1967年の卒業アルバムより。教養部前での雪合戦

1969年 教養部で48時間のストライキに突入（金大紛争）

1971年 日本海初の文系系大学院として法学研究科修士課程を設置



1977年の卒業アルバムより。試験風景

1980年 法学部の分離改組。文学部・法学部・経済学部を設置



金大祭。石川門から出陣する学生たち

1989年 総合移転を開始。文・法・経済学部と附属図書館が角間キャンパスへ移転



角間中央図書館への引越し

1995年 医療技術短期大学部を改組し、医学部保健学科を設置

1997年 金沢大学ホームページ開設

1999年 創立50周年記念式典を開催

2004年 国立大学法人金沢大学がスタート

2005年 総合移転が完了。医学部を除く7学部が角間に集結



自然科学本館アカデミックホール

2008年 3学域16学類に再編予定

写真出典：「金沢大学 写真で見る50年」
◆本学の歴史は「アカンサス」バックナンバーの「学都金沢・歴史探訪」や、ホームページ内「金沢大学の歩み」（<http://web.kanazawa-u.ac.jp/shiryō/50th/index.html>）でご覧いただけます。

Memory of Kanazawa University 1862 - 2008

金沢大学同窓会の活動

'06
~'07

卒業学部を超え、
日本各地で交流が進む

平成18年8月に金沢大学同窓会連絡協議会が設立されて以降、各地区や職域事業所では卒業学部を超えて、卒業生の交流が活発化しています。

平成19年1月以降には県内の企業で金沢大学卒業生の集いが行われるなど、卒業学部を超えた自主的な職域（事業所）同窓会の発足が相次ぎ、平成19年度内には2、3の職域が加わる見込みです。

9/2 法・経・文同窓会関西支部と金沢工業会近畿支部の合同懇親会を開催。十全同窓会や四高同窓会等も参加しました。

10/14 法・経・文同窓会と金沢工業会東京支部が中心となり、東京地区初の合同懇親会を開催。理学部、医学部、薬学部、四高の同窓生も多数参加しました。



10/20～22 四高同窓会が企画した「四高開学120年祭」関連行事の開催。金沢大学フィルハーモニー管弦楽団や合唱団（いずれも在学生）、大学本部が積極的に協力し、前身校の歴史と伝統の継承に努めました。



11/25 四高桜植樹祭。

3/10 法・経・文同窓会福井支部の総会・懇親会に、県内に支部のある十全同窓会、工業会、四高同窓会の代表を招待しました。



1/10 645回を重ねた「東京四高会月例会」が終焉。東京の金沢大学OBが中心となり「北の都会月例会」と改称して、新たな歴史を刻み始めました。

3/22 教育学部同窓会幹事会を開催。

3/23 法・経・文同窓会理事会・理事懇談会を開催。

活動スケジュール（2007年4月以降）

- 5/19 薬学同窓会〔第44回理事会・総会・講演会・懇親会〕
- 6/6 四高同窓会〔四高・東京大会2007年〕
- 6/23 金沢工業会〔全国総会・石川支部総会・角間新キャンパス見学会〕
- 7/6 金沢工業会〔富山支部総会〕
- 7/7 医学部十全同窓会〔平成19年度総会・新任教授就任記念講演〕
- 4/4, 5/9, 7/4, 8/7, 9/5, 10/4, 11/7, 12/5 「北の都会」月例会

金沢大学同窓会

- 法・経・文同窓会
TEL(076)264-1667（同窓会事務局）
- 教育学部同窓会
TEL(076)264-6196（同窓会連絡協議会事務局気付）
- 理学部同窓会連絡会
TEL(076)221-2061（金沢子ども科学財団気付）
- 医学部十全同窓会
TEL(076)265-2131
- 医学部保健学科つるま同窓会
TEL(076)265-2504
- 薬学同窓会
TEL(076)234-4411
- 金沢工業会
TEL(076)264-0482
- 四高同窓会
TEL(076)262-5464（石川近代文学館内）

同窓会の人的ネットワークを活用し、有意義な人生を金沢大学同窓会連絡協議会

歴史と伝統があり、総合大学でもある金沢大学は、多方面で活躍する多くの卒業生を輩出しています。そのため、同窓会では質の高い人的ネットワークと有意義な出会いの機会が得られます。卒業後も、“同窓生”という形で、大学生活の思い出を育むことが期待されています。

〔事務局〕金沢大学総務部
〒920-1192 石川県金沢市角間町
TEL:076-264-6196 FAX:076-234-4014
E-mail now@kanazawa-u.ac.jp



<http://www.kanazawa-u.ac.jp/internal/graduate/index.html>

同窓会や後援会、卒業・成績証明書取得手続きのほか、学びたい人を応援する各種セミナーの案内など、卒業生のための情報がいっぱいです。

研究業績および受賞

〔2006〕

10月 医学系研究科の京哲講師「Nature Medicine」に論文掲載。京講師の研究グループは、がん細胞を光らせ、病巣の特定を容易にする方法を発表。

12月 自然科学系図書館棟が「中部建築賞」を受賞。

12月（財）武田科学振興財団研究助成金に、がん研究所・平尾敦教授の研究グループによる共同研究課題「がん幹細胞発生・維持機構の解明」が採択。



12月 「交通関係環境保全優良事業者等表彰」を受賞。「バスの利用促進施策」の功績を評価され、大学として全国で初めて国土交通大臣表彰を受賞しました。

〔2007〕

2月 医学系研究科・東田陽博教授が「Nature」に論文掲載。東田教授の研究グループは、社会認識や養育行動に必要なCD38分子の機能を発見。「子どものころのひずみ」の問題解決や、自閉症など広汎性障害の原因究明と対応・治療に手がかりを与えることが期待されます。



3月 自然科学研究科・猪俣勝彦教授が日本化学会学術賞を受賞。

3月 現在世界最速度の原子間力顕微鏡の技術を持つ本学（発明者…自然科学研究科・安藤敏夫教授は、そのレベルの2.6倍の速度の原子間力顕微鏡の技術を開発し、ドイツのJPK社と特許実施許諾契約を締結しました。

学長表彰（2007.3）

■ 論文等が優れていると認められる者

酒井賢太 自然科学研究科
コンクリート工学講演会年次論文奨励賞を受賞。

姫野友紀子 自然科学研究科
第28回日本生物学的精神医学会ほか2学会の合同年会において優秀演題賞を受賞。

参納千夏男 自然科学研究科
第33回セメント協会論文賞を受賞。

安食菜穂子 自然科学研究科
「Natural Medicines」に掲載された論文の中から日本生薬学会論文賞を受賞。

金 鐸 医学系研究科
自閉症の病態理解を深めた内容の論文が「Nature」に掲載。

■ 本学の課外活動の振興に顕著な功績があったと認められる団体



サッカー部
代表横山弘一
第34回北信越大学サッカーリーグ優勝、平成18年度天皇杯石川県サッカー選手権大会準優勝。

男子バレーボール部
代表南雲俊宏
春季北信越大学男女バレーボール選手権大会男子一部で優勝。

合唱団代表近藤淳
第59回中部合唱コンクール金賞受賞、四高開学120年記念コンサートで四高寮歌等を合唱。

■ 本学の課外活動の振興に顕著な功績があったと認められる個人

山中雄介 工学部
第42回北信越学生剣道新人大大会個人優勝、他人賞多数。

山下 優 法学部
第4回全日本学生剣道オープン大会優勝、他人賞多数。

相澤栄治・脇村嘉宏 工学部
平成18年度近畿北陸学生ヨット大会個人戦（470級）優勝。

今井雅文 教育学部
第53回秋季北信越大学男女バレーボール選手権大会で個人最優秀選手賞を受賞。

宮部 薫 教育学部
4年間にわたり、北信越の学生テニス選手権大会で優勝や準優勝など多数受賞。

成瀬公博 工学部
第25回北信越学生アーチェリー個人選手権大会優勝。

古澤さゆり 教育学部
平成18年度北信越学生アーチェリー対抗戦女子個人優勝。

両角友佑 教育学部
第23回日本カールリング選手権大会男子部門準優勝など優秀な成績をおさめ、オリンピック強化指定選手にも選ばれる。（写真の左から3人目）



■ 社会奉仕活動など顕著な活動が認められる個人

フィルハーモニー管弦楽団
代表黒木圭介
四高開学120年記念コンサートで四高寮歌等を演奏。



■ 社会奉仕活動など顕著な活動が認められる個人

荒井朋子 医学系研究科修士課程
スマトラ沖地震の復興支援活動で寄生虫感染症制御学講座の研究チームの一員としてボランティアで参加。

■ その他、表彰に価する行為等があったと認められる者

松倉忠司 法学部
本部かの子 文学部
土井健太郎 経済学部
山下亮 法務研究科
「なんでも相談室」で学生無償ボランティアの相談担当者として、同じ金大生の様々な相談に熱意を持って真摯に対応。

NEWS & TOPICS 金大のいまがわかる

[ニュース&トピックス]

金沢大学のニュース&トピックスおよびイベント情報は、[金沢大学 ホームページ](http://www.kanazawa-u.ac.jp/)でご覧いただけます。

<http://www.kanazawa-u.ac.jp/>

December 12月

12/2 雪かきボランティア協定を締結

地域の雪かきを手伝うため、学生たちが協定を締結。地域との交流が始まり、新しい繋がりが生まれています。

12/5 学生と学長の懇談会を開催

学生の声を直接聞き、今後の教育改革や学生支援、大学の運営に役立てることを目的として開催されました。「大学施設の活用」や「共通教育科目の充実」など様々な意見が交わされました。今後も学生たちの声を大学経営に取り入れる試みが続けていく予定です。



詳細情報
http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/ad_gakusei/student/kondan.html

12/8 駐日イスラエル大使が来学

12/15 学内に「バスくくる」を設置

自然科学本館エントランスホール内にバスロケーション案内板が設置されました。

12/19 卒業生が米国のプロアメフトリーグの登壇
「NFLヨーロッパ」に挑戦

加藤公基さん(2006年3月工学部卒)が、NFLヨーロッパに参戦する日本

February 2月

2/3~4 「雪だるままつりin角間の里」を開催

暖冬の影響で角間キャンパスでは雪が足りず、白峰からトラックで雪を運んでの開催となりましたが、1500人以上が参加しました。



2/13~16 「合同企業説明会IN金沢大学 業界・企業研究会」を開催

2会場を使った大規模な会に、初日から527名の学生が参加しました。

2/25~26 入学試験前期日程を実施

合格発表は3月8日、また後期日程の入学試験は3月12日、合格発表は3月20日に行われました。



2/28 「ナースのたまごひよこサロン」を開設

看護学生と新人ナースが先輩看護師と気軽に話し合える場として、附属病院に開設されました。

人口rosター候補選手に選ばれました。



12/19 金沢大学公式ホームページをリニューアル

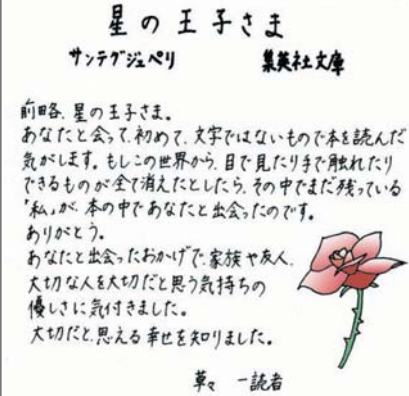
12/26 附属病院に車椅子が寄贈

財団法人北陸特定郵便局長会会長・上野徹氏より、診療助成を目的として5台を寄贈いただきました。

January 1月

1/9 「第2回読書マラソンコメント大賞」金賞を受賞

全国の108大学8449通の応募作品から優秀作金賞に法学部4年(受賞当時の木下優美さんの作品)が選ばれました。



March 3月

3/1 フォーミラ研究会が優勝

「第20回自動車先進安全技術会議 学生安全技術設計コンペティション」アジアパシフィック予選で優勝しました。

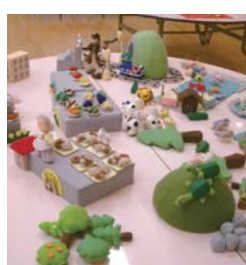
3/3 国立大学では初めて、薬学共用試験OSCEトライアルを実施

3/10 学生リユース市を開催

卒業生が使っていた家具・電化製品などを修理修繕し、新入生に安く提供しました。

3/10 附属幼稚園120周年記念式典を開催

1887年4月に石川尋常師範学校附属幼稚園として誕生。120周年を記念し、式典と卒園製作作品展を開催しました。



3/20 教員養成GPFフォーラムを開催

3/26 能登半島地震対策本部を設置

対応窓口を一本化し、情報収集および連絡調整を行うことを目的に設置されました。また、4月5日には総合大学としての機能を生かし、被災地の復興および防災に役立てるための提言等を行っていく組織「能登半島地震学術調査部会」を設置しました。連絡窓口・TEL(076)264-5010(総務部総務課)

1/18 2007年度も100円バスを継続

旭町・金沢大学間のバス料金を100円にする実証実験が目標利用者を突破、2007年度の継続が決定しました。

1/20 NHK全国短歌俳句大会ジュニアの部で大賞を受賞

附属中学校1年(受賞当時)の泉美里さんが最高賞の大賞を受賞しました。

1/20~21 大学入試センター試験を実施

1/22~2/18 就職支援図書展を開催

中央図書館で就職対策資料の展示を行い、学生の就職活動を支援しました。

1/29 韓国・国立釜慶大学校と大学間交流協定を締結、研究分室を開設

研究分室は初の海外研究拠点です。

1/25 「金沢がん生物学国際シンポジウム2007」を開催

1/27 「生物多様性保全」をテーマにシンポジウムを開催

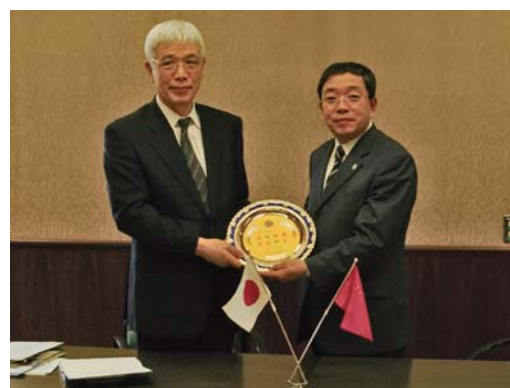
1/29 派遣留学報告会を開催

17名の学生が、派遣先大学の雰囲気や授業、寮生活など生活に関する事、留学をして良かったことなどについて報告しました。



1/31 中国延辺大学と大学間交流協定を締結

協定を記念し、国際ワークシヨップ「北東アジアの地表プロセスと環境変動」が開催されました。



学部生1,872名、専攻科・別科43名、大学院研究科修士と博士論文審査合格者805名に学位記・修了証書を授与しました。

それぞれの道へ 涙と笑顔の卒業式

3/6



附属高等学校 125名卒業。

3/7



附属幼稚園 52名卒園。

3/8



附属養護学校 小学部3名、中学部6名、高等部8名卒業。

3/9



附属小学校 108名卒業。

3/13



附属中学校 157名卒業。

3/22

金沢大学 学位記・修了証書授与式

